

## タイの人々への思いこそが支援

書いた人 N.N さん

まず、帰国して一番に思ったことはこの研修に参加して本当に良かったということです。タイを個人で訪れることはもちろん出来ますが、この研修では、単なる旅行では体験できないことや、他のルンアルンのメンバーと一緒にだったからこそその経験をする事ができました。研修前のレポートでは、タイ研修で学びたいこととして、私は、ルンアルンプロジェクトのことについて、中野さんが活動を始めた経緯や思い、タイの山地民の暮らしについて知りたいということを挙げました。この研修でその目標を達成することができたと思います。一週間中野さんと一緒に行動している中で、中野さんが暁の家を紹介してくださったときや、山に行ったときに山地民の方々について紹介してくださったときに色々なお話を聞くことができました。その中で、中野さんは本当に、彼らの暮らしが少しでも良いもので持続可能なものになるように、そして子どもたちは将来のためにしっかり教育を受けることができるように、とタイの人々のことを思って活動をしているということを感じることができました。夜に開いてくださった勉強会でも、活動の経緯や現在行っている活動について教えていただいたことで、ルンアルンプロジェクトをもっと近くに感じるようになり、この研修が終わっても何らかの形でルンアルンプロジェクトを支援していきたいと思いました。中野さんは勉強会の中で、活動を始めた最初のころは周りの風当たりも強く大変なことばかりであったとおっしゃっていましたが、そこであきらめるのではなく現在まで続けてきたというのは、タイの人々に対する思いがそれだけ強くあったから出来たことではないかなと思いました。

中野さんがおっしゃっていた、チャンスがあれば自分の手でつかまないといけないという言葉がとても印象に残っています。この言葉は、今まで様々なチャンスを逃さずに挑戦してきた、このように活動を続けておられる中野さんだからこそ、身をもっていうことが出来るのではないかなと思いました。

タイの山地には、民族間の言語の違いによって、学校で皆と同じように教育を受けられない子どもたちがいたり、生計を立てていくことが困難である人々が多くいるということを改めて知りました。しかしそれだけではなく、中野さんや堀内佳美さんのように、彼らのために何が出来るかを考えて活動を行い、彼らの生活を支えていこうとしている人がいるということも知ることができました。将来は直接でなくてもそのような人の活動を応援して少しでも関わっていきたくと思いました。

運転手のソンさんやロージーさんヤーシーさんや暁の家の方々、山でおもてなしをして下さった方々との一つ一つのやりとりの中で、彼らが本当に私たちのことを考えてくれているということが大いに伝わってきて、タイの人々の本当の優しさに触れることができました。お店で出会った人々や、すれ違っただけの人たちも私たちに微笑みかけてくれて、困ったことがあればすぐに助けてくださいました。タイが微笑みの国と言われる理由を、実感することができたと思います。日本はおもてなしの国と言われますが、実際は、他人は他人

であったり、困っている人を見かけても声をかける人が少ないということがあるので、日本でもタイのように、誰に対しても笑顔で支えあっていけるようになってほしいと思います。

日本とは異なり、トイレで紙が流せなかったり、水もボトルのもの以外を飲まないように気を付けなければならなかったり、タイでの生活は不便なところもありました。ですが、タイ研修を振り返って思い出すのは、そのような不便さではなく、チェンマイ大学の学生さん達やメーコックファームの子どもたちと一緒に踊った楽しい時間、山の上で歯磨きをしながら友達と見た星空、ほかにも、ふるまっていたいただいた料理が美味しかったとか、出会った人々が皆優しくかったとか、そのようなことばかりです。このような思い出は、中野さんがこの研修中の予定を計画してくださって、更に他のメンバーや平岩先生がいたからこそ作ることができたのだと思います。このような経験を大学生のうちに行うことができ、本当に良かったです。必ずまたタイに行って、次は暁の家やコーヒー畑でお手伝いをさせていただきたいと思います。そしていつかは、このタイ研修に参加させてくれた家族をタイに連れて行ってあげて、私が今回この研修を通して学んだことや、実際に現地で感じたタイの素晴らしさを教えてあげられたらいいなと思います。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。